

第47回熊日旗学童軟式野球熊本県大会要項

1. 目的 健全なる学童達の育成と技術の錬磨並びに親睦を図ることを目的とする。
2. 主催 熊本日新聞社
3. 主管 熊本県軟式野球連盟・熊本市軟式野球連盟
4. 会期 令和7年8月9日(土)・19日(火)・20日(水)・23日(土)・24日(日)
予備日 30日(土)・31日(日)
5. 会場 運動公園野球場他
6. 参加資格 (1)選手の登録は、熊本県内居住者及び隣接県に居住している者
(2)熊本県軟式野球連盟各支部に登録しているチームであること
(3)支部予選代表又は支部推薦チームで、平成27年度熊本県軟式野球連盟で決定しているチーム数
(4)学童公認コーチ資格を有する者が在籍するチーム。
7. チーム編成 監督1名(18歳以上)、コーチ2名以内、選手10名以上25名以内とする。
8. 競技規則 2025年公認野球規則、2025年競技者必携並びに別に定める特別規則を適用する。
9. 試合方法 (熱中症対策方法)

一・二回戦

- (1)トーナメント方式とし各試合5回とする。
ただし、試合時間が1時間15分を経過した場合には新しい回には入らない。
- (2)4回以降7点差の場合は得点差によるコールドゲームとする。
- (3)5回又は制限時間が来ても同点の場合は、タイブレーク戦を最大2回まで行う。
それでも決着がつかないときは、出場選手9名の抽選で勝敗を決定する。
- (4)降雨、暗黒などで5回までイニングが進まなくても4回を完了すれば試合は成立する。

準々決勝戦以降

- (1)トーナメント方式とし各試合6回とする。
ただし、試合時間が1時間30分を経過した場合には新しい回には入らない。
- (2)5回以降7点差の場合は得点差によるコールドゲームとする。
ただし優勝戦は5回以降10点差とする。
- (3)6回又は制限時間が来ても同点の場合は、タイブレーク戦を最大2回まで行う。
それでも決着がつかないときは、出場選手9名の抽選で勝敗を決定する。
ただし、優勝戦は勝敗が決するまで行う。
- (4)降雨、暗黒などで6回までイニングが進まなくても5回を完了すれば試合は成立する。

全試合共通

- (5)指名打者制度、大谷ルールは適用しない。
- (6)12秒、20秒ルールについて
- (7)バッターボックスを外さないルールについて
- (8)学童バットのルールについて
- (9)ユニフォーム着用のルールについて
- (10)ベンチサイドノックについて
- (11)素振りの禁止について

(12) 投手の投球制限については、2025 年全日本軟式野球連盟の規定通りとする

1 日 70 球で到達打者完了までとする。(ダブルヘッダー持ち越し可)

4 年生以下は、1 日 60 球とする。

なお、特別継続試合での投球数は元の試合で投じた球数を引き継ぎ残りの球数のみで行う。

(13) 守備の時間が長い場合(概ね 20 分)及び酷暑の場合での 2 回と 4 回の終了後、タイブレーク戦に入る前に健康維持を考慮し、審判員の判断で約 5 分間の給水タイムを設けることとする。(試合時間には入れない)

給水タイム時はベンチ内に入る。

天候次第では実施しない場合もあるので試合前に確認すること

10. 学校行事との調整

学校行事については配慮するが、行事参加者を除いて 10 名以上の選手が試合に出場できる場合は日程調整を行わない。

11. 使用球 (公財)全日本軟式野球連盟公認球 J 号ケンコーボール

12. 審判 熊本県軟式野球連盟公認審判員

13. 参加申込 (1) 出場資格を得たチームは参加申込書に所定事項を記入し、登録支部へ提出する。

(2) 支部は記載事項を確認、所定事項を記入し 7 月 21 日(月)までに熊本県軟式野球連盟少年部事務局にメールにより提出する。

※ 少年部メールアドレス kumamoto-shounen@bun.bbiq.jp

参加申し込み後の変更追加は監督会議前日まで認める。

14. 参加料 15,000 円(監督会議時に納入)

15. 監督会議 (1) 日時 令和 7 年 7 月 26 日(土) 14 時 00 分～

(2) 場所 熊本日新聞社会議室

TEL 096-361-3383 住所 熊本市中央区世安 1-5-1

16. 開始式 行わない。

17. 表彰 優勝 賞状・優勝旗・メダル 準優勝 賞状・準優勝旗・メダル 3 位 賞状・楯・メダル

18. 上位大会への出場推薦

本大会の優勝チームは王貞治杯軟式野球大会への出場を推薦する。

熊本県軟式野球連盟少年部の県大会における連絡

2025. 7. 26 少年部事務局

I 競技運営上の注意事項

(試合前に関する事項)

- 1 前日降雨の場合は主催者で決定する。【熊本県軟式野球連盟】のホームページで当日の5時30分に掲載する。
試合前及び試合中の降雨等による中止決定は主催者及び審判団の判定による。
- 2 監督、コーチは、選手と同一のユニフォームを着用すること。
- 3 背番号は、監督30番、主将10番、コーチ29番、28番とし、選手は0番から99番とする。
- 4 ユニフォームの左袖には都道府県名を必ず付けなければならない。(他のものをつけてはならない。)
- 5 右袖には制限がないのでワッペン、マーク、文字等をつけてもよい。
- 6 投手がリストバンド、サポーターなどを使用することを禁止する。なお、負傷で手首に包帯などを巻く必要があるときは、球審の承諾が必要である。
- 7 チームは試合開始予定時刻の60分前までに試合会場に到着し、直ちに本部席の役員にチーム名を伝え打順表を受け取ること。
- 8 打順表は登録している選手全員を記載すること。
記載されていない者はその試合には出場できない。
- 9 攻守決定を第1試合は開始時刻の30分前に、第2試合以降では学童は前の試合の3回終了時または45分経過後、少年は前の試合の4回終了時または1時間経過後に、本部に監督と主将が打順表(4枚)を提出し、大会申込書と照合ののち、球審立会いのもと行う。
- 10 次の試合の先発バッテリーは、攻守決定後球場内で投球練習をすることができる。
- 11 試合開始予定時刻前でも、前の試合が終了した後20分で試合を開始する。
試合開始予定時刻になっても会場に来ないチームは原則として棄権とみなす。
- 12 試合前練習のグラウンド使用については、当該試合審判員の指示に従うこと。
特に第1試合のチームのグラウンドの使用や練習(声を出してのランニング等を含む)は、近隣の民家への配慮のために、会場役員または審判員の指示を受けてから開始すること。
- 13 球場内での練習ではフリーバッティングは禁止する。カラーボールでの練習も禁止する。また登録している監督、コーチ、選手以外は練習といえどもグラウンドに入ることはできない。
- 14 練習時に会場の施設を破損した場合は、そのチームで弁償する。
責任を取らないチームは大会出場を禁止する。
- 15 ベンチは組合せ表の若番を一塁側とする。
- 16 ベンチ内でのメガホンは1個に限り使用を認める。
- 17 ベンチに入れる人員は登録されたユニフォームを着用した監督、コーチ、選手10名以上25名以内と、代表者、マネジャー、スコアラー各1名とする。
熱中症対策として保護者2名までベンチに入れることができる。
- 18 用具(金属バット、ヘルメット、マスク(SGマーク入り)、プロテクター、レガース(SGマーク入り))はすべて全日本軟式野球連盟公認のものを使用すること。

捕手は必ずファウルカップを着用すること。

グラブ、ミットの締め紐の部分の長さは、親指の長さ以内とする。

捕手用マスクの SG マークについては、2025(令和7)年シーズンから義務化となる。

(試合中に関する事項)

- 19 控え選手等が準備投球を捕球する場合は、捕手に求められる用具を全て着用していない限り、立って捕球する。(出場している内野手可)
- 20 試合中場外へ出たボールは、1 塁側、3 塁側ベンチの近いチームで処理すること。
- 21 攻守交代のとき3アウト直後のボールは、守備側選手が必ず投手板上に置くこと。
- 22 イニングの合間(攻守交代の時)の10人目の選手によるキャッチボールは可とする。
- 23 2回以降の内野の転送球は、投手の投球練習直後のみ認める。
- 24 守備が 1 イニング内で長時間(約 20 分)にわたった時及び酷暑の場合は約5分間の水分補給タイムを適用する場合がある。(試合時間には入れない)
給水タイム時には選手はベンチ内に入ること。
天候次第では実施しないこともあるので試合前に確認すること。
- 25 少年部、学童部では監督(不在の場合は代行者)のみが、グラウンド内に出て指示を与えることができる。コーチがグラウンド内に出て指示を与えることは許されない。
- 26 試合中の抗議は監督か当該プレーヤーに限る。(審判員の裁定が規則の適用を誤って下されたとき)
打球がフェアかファウルか、投球がストライクかボールか、走者がアウトかセーフかという裁定に限らず、審判員の判断に基づく裁定は最終のものであるから、プレーヤー、監督、コーチ、控えのプレーヤーが、その裁定に対して、異議を唱えることはゆるされない。(8.02)
- 27 不正行為の場合は、すべてチーム失格とする。

(試合後に関する事項)

- 28 試合終了後直ちに両チームは全員で内野グラウンドを整備すること。
- 29 ベンチ廻りや応援席付近は必ず清掃すること。

II 試合に関する禁止事項

- 1 危険防止とフェアプレイの観点から極端な前進守備を禁止する。
一塁手及び三塁手は塁間の中間点より前で、二塁手及び遊撃手は投手より前で守備をできないが、投手の手からボールが離れたら前進できる。
- 2 マナーアップとフェアプレイの観点から野手が走者の視野を遮る行為を禁止する。
走者がタッグアップしているとき野手が走者の前に立ち視野を遮る行為
野手が走者の前に立ち、ボールを保持している投手板上の投手への視野を遮る行為
- 3 攻守交代の際に、控え選手がファウルグラウンドに出て守備練習を見守ることを禁止する。
ただし、ベンチ前で見守ることは認める。その際は球審の「プレイ」宣告までにはベンチに戻るこ

- 4 投手の準備投球に合わせて、先頭打者、次打者が次打者席で素振りをする以外、他の選手がベンチを出て素振りをするを禁止する。
- 5 打者が投げ終わった球種を、次打者他に知らせることを禁止する。
- 6 投手が投手板に触れて投球位置についたら、投手の動揺を誘うような大きな声を発することを禁止する。
- 7 学童部、少年部(女子共)の試合においては、ベンチ内の大人がいかなる状況であっても、選手を萎縮させるような言動を禁止する。
- 8 試合中紛争等の際に激昂のあまり審判員及び役員又は相手チームに手をかけたら、ただちにその選手及び監督の属するチームは失格とする。(応援団も含む)
なお、そのチームおよび選手は、今後大会への出場は一切認めない。

Ⅲ 保護者の皆様へのお願い

(投球数確認者の協力について)

全試合、当該チームより各チーム1名の協力をお願いします。

(応援に関する事項)

- 1 会場内の歩道やランニングコース等に物を置いたり、立ち話することは、他の利用者の妨げになりますので、しないでください。
- 2 会場(運動公園以外)への車の乗り入れは、原則10台までとします。それ以外の車は、近隣の有料駐車場をご利用ください。また、会場付近の路上駐車はできません。
- 3 駐車場の台数に限りがありますので、試合後は速やかにお帰りください
- 4 応援は選手の激励を旨とし、相手に不快感を与えるような応援はしない。
- 5 いかなる状況であっても選手を萎縮させるような言動はしない。
- 6 球場周辺へ迷惑となる太鼓など、鳴り物の使用や声をそろえての大声での応援はできません。
- 7 会場(敷地)内は、全面禁煙です。会場内での喫煙は控えてください。また、場外で喫煙の際も、近隣の民家や歩行者等にも配慮をお願いします。

Ⅳ 感染症の予防について

- 1 監督、コーチ、選手が感染症を発病した場合には必ず少年部へ連絡してください。
- 2 せき、発熱などの症状のある人は、参加、応援をご遠慮ください。
- 3 選手及びチームスタッフ(監督等)のマスク着用は個人の判断に委ねます。
ただし、持病や熱中症等の対策を考慮して対応ください。